

書物としての宇宙

受講料
無料

グーテンベルクが活字の印刷を始めて五百年、紙の本が電子本に簡単にとって代わられるような話になっているが、本当にそうか、本当はどうなのか。紙の本が実はどういう巨大な文化であったのかが十分に知られているとは思えない状況

の中、「便利」というだけで電子本に即くことで、何を失う代わりに巨大な何を喪ってしまうのか。世界や宇宙を「本」—Liber mundi(宇宙=書物)—と感ずることで展開されてきた文化の壮大な歴史を最強の講師が語り尽くす。

第36回 明治大学人文科学研究所公開文化講座

2012年11月17日[土] 14:00~19:00

明治大学駿河台キャンパス リバティタワー (1F リバティホール)

総合司会

明治大学国際日本学部教授 高山 宏

14:00~15:50 「ブックウェアの仮説」 — コンテキストの中のテキスト — 編集工学研究所所長 松岡 正剛

16:00~17:30 「コレクション」 — 蒐められた本の宇宙 — 明治大学国際日本学部教授 鹿島 茂

17:40~19:00 「祝祭の書物・書物の祝祭」 — 平田篤胤、折口信夫とポーとマラルメ — 多摩美術大学美術学部准教授 安藤 礼二

松岡 正剛 1944年生れ。70年代の総合誌『遊』刊行以降、半世紀近く情報文化論と日本研究の変らぬ第一人者。

鹿島 茂 1949年生れ。バルザックなど仏文学界の変らぬ人気教授。本と絵のコレクションで有名。

安藤 礼二 1967年生れ。あまた受賞の折口信夫研究も含め、近代文化史、文学史の書き換え作業は清新。